

実践女子大学校舎・体育館

JISSEN WOMEN'S UNIVERSITY CLASSROOMS & GYMNASIUM

所在地	東京都日野市大坂上 4 - 1 - 1	location	Hino City, Tokyo
建築主	学校法人実践女子学園	owner	Jissen Women's University
設計者	株式会社第一工房	architects	Architect's Copartnership Dai'ichi Kobo
施工者	安藤建設株式会社 フジタ工業株式会社	contractors	Ando Construction Co., Ltd. Fujita Corporation
竣工	1985年 3 月31日	completion date	March, 1985





アプローチデッキ Approach deck.



エントランスホール Entrance hall.



全景 General view.



講義室 Lecture room.

建築概要

敷地面積 39,515.00㎡
 建築面積 6,613.74㎡ (校舎棟・体育館棟計)
 延床面積 21,364.75㎡ (校舎棟・体育館棟計)
 構造=鉄骨コンクリート造
 規模=地下2階 地上5階 塔屋1階, 地上2階 (体育館棟)
 仕上げ概要
 外部仕上げ 屋根: 木毛板⑦25 アルミ文字
 葺き⑦0.8 屋上: アスファルト防水 コンクリート金ごて押え 外壁: コンクリート打放し撥水性防水剤塗布 磁器モザイクタイル模様貼り 1,045×935グリッド 建具: 鋼製 アルミ製 長期防蝕塗料
 内部仕上げ 閲覧室 床: コンクリート金ごてタイルカーペット 壁: アクリル系3回塗り⑦15型枠 コンクリート打放し 天井: アクリル系3回塗り⑦15型枠 コンクリート打放し岩綿吸音板⑦15 体育館 床: 鋼製床下地カバザク

ラフローリング⑦15UC 壁: 木造軸組 有孔ベニア⑦6 グラスウール裏打ち OS-CL 天井: ガラス繊維板木毛板下地露出 鉄部 OP
 設備概要
 空調 熱源: 蒸気ボイラー2台 熱交換にて温水 将来チラーユニット設置可 方式: パネルコンベクター ファンコイル (将来冷可) 冷凍機: AV ホール 空冷ヒートポンプ式空調機
 ボイラー: 蒸気ボイラー2台
 衛生 給水: 受水槽容量55t 高架水槽容量15t 給湯: 実験実習室 ガスボイラー その他 瞬間湯沸器 排水: 既存合併処理槽に接続
 消火 屋内消火栓 連結散水栓 ハロンガス消火



図書館 Library.



体育館 Gymnasium.

選評 香山壽夫 扇谷 壽 吉成 武

この建物の第一の特徴は、この計画を様々な施設の複合された一種の都市施設として取り扱うという大胆な構想にもとづいて、見事な建築的解決を導き出した点にある。すなわちこの計画は、都心から郊外への専門学部に移転によってキャンパスを新設統合したものであるが、住居地区に囲まれた狭隘な敷地条件に対し、設計者は、中央図書館、事務部、食堂、それに二つの学部をまとめて一棟の中に統合した。これは、下手をすれば、乱雑で騒々しい建物を生み出しかねない方向であったが、設計者の力量はむしろ類例の少ない活気ある新しい大学校舎を作り上げることに成功した。この校舎の基本型は、むしろありふれた5階建ての中廊下型の校舎を並行配置し、1階でそれを一体にしたものといってよいものである。しかし、ここにおいては大胆な複合化と巧みな空間構成により、1階のエントランス・ホールは、都市の盛り場のメイン・ストリートを建物の中に持ち込んだかのような独特の活気を作り出している。中でも際立った成功をおさめているのは、図書室である。それは、文字どおり大学の中央に配され、学生や教官の利用に便利だけでなく、それは教育・研究の中

核たるべきこの施設の精神をその空間の特質として見事に実現している。賑やかな廊下から中に入った途端に一転して書物に囲まれた壮大な空間が展開する。中央の五つの天窗より光が降り注ぎ、その光の中をゆったりと閲覧室に降りていく階段の構成は、何と精神の高揚をさそうことであろうか。

この建物のもう一つの特徴は、その徹底的な打放しコンクリート仕上げの使用である。このことは、既にこの設計者の特徴として良く知られているものであるが、この建物においては、この打放しのコンクリート壁面に、モザイク・タイルを格子状に貼る新しい工夫を凝らしている。青緑色のこのモザイク・タイルの格子は、コンクリート面と対比されることによって全体にリズムと女子大らしい優しさを与えることに成功している。このような建物の内外に及ぶ全面的な打放し仕上げの展開は、施工者に極度に細心な施工計画と管理を要求するものであるが、施工者はそれにコンクリート打設の基本に立ち返って鋭意取り組み、ローコストな条件の中で見事な結果を生み出している。

REVIEW

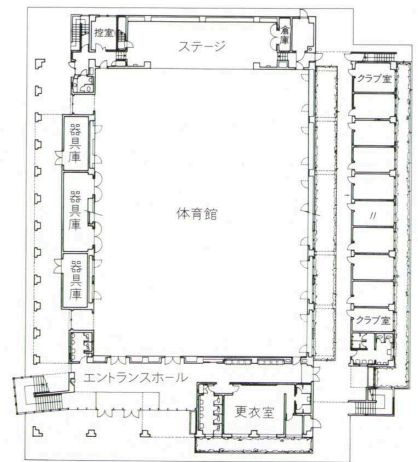
Hisao Koyama, Hisashi Ogitalani and Takeshi Yoshinari

The outstanding characteristic of the building is the boldness of its governing concept: combination of a variety of functions into what can be called a kind of urban complex. Though it has recently moved from the city to the suburbs, the school nonetheless has a fairly cramped campus surrounded by residential districts. The designer combined the central library, offices, dining hall, and two academic departments in one wing. Although, in unskilled hands, such a project could have resulted in confusion and disarray, the talented designer has produced a university class building with unusual vigor and vitality.

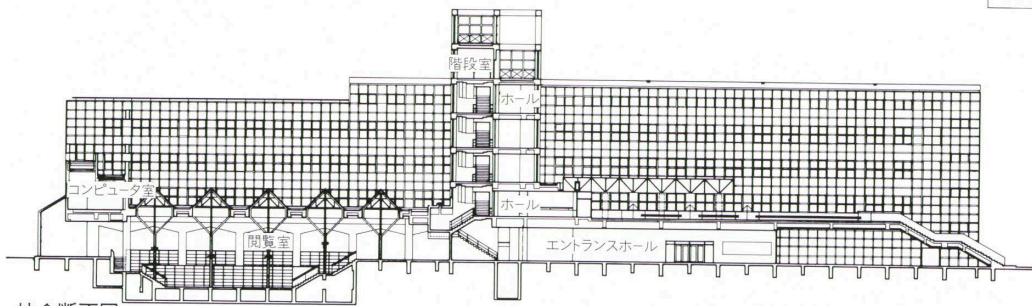
The basic form is the perfectly ordinary, five-story classroom building with a central corridor. But, as a consequence of bold fusion and skillful spatial composition, the first-floor entrance hall produces the impression of a bustling city street inside the building.

The library is the most conspicuously successful part of the whole. Centrally placed and therefore convenient to students, it gives the feeling of being the true nucleus of educational and research activities. Illuminated by five skylights, the staircase leading to the reading room has an extremely elevating effect on the mind.

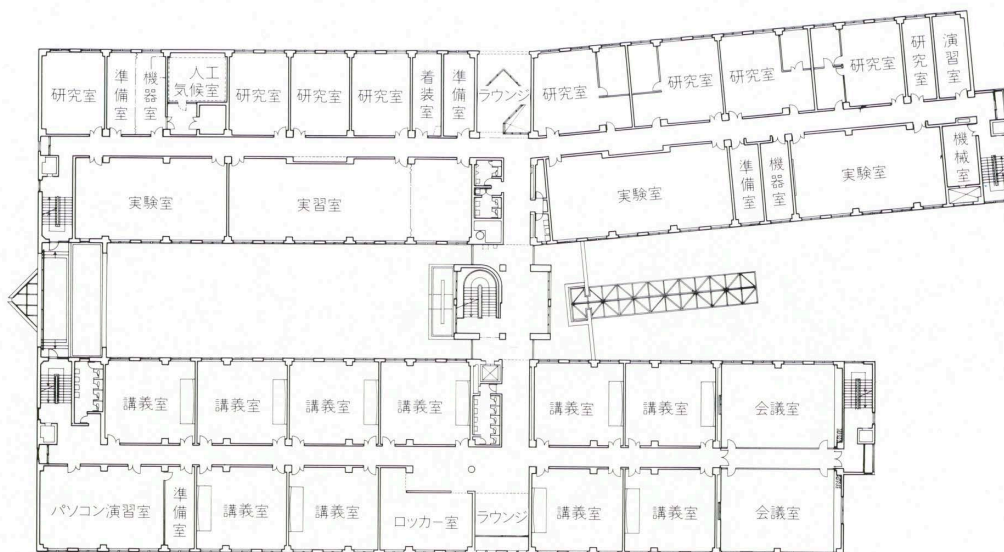
Another characteristic of the building is the use of unfinished concrete throughout interior and exterior. In this case, the designer, who is known for a preference for concrete, has accented the exterior with lattice patterns in bluish-green mosaic tiles that establish an overall rhythm and impart a note of gentleness well suited to a women's university. Although this thoroughgoing use of unfinished concrete was demanding in terms of detailed finishing and supervision, the contractor enthusiastically rose to the occasion and produced outstanding results on a low budget.



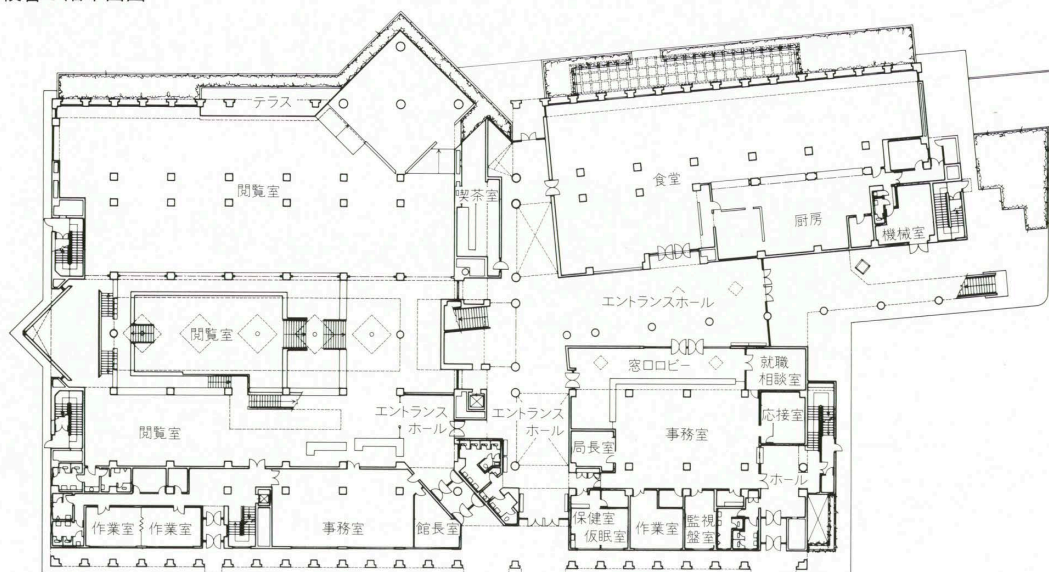
体育館1階平面図



校舎断面図



校舎3階平面図



校舎1階平面図